【グループワーク（Bグループ）】

（コーディネーター 前田 氏）

・今回から参加される委員の自己紹介から始めたいと思います。

（委員１）

・東めむろに住んでいる。

・本州に住む自分の子どもが新嵐山のキャンプを楽しみに遊びに来てくれた。そのため、新嵐山

にとても関心があるので会議に参加した。

（委員２）

・青葉町に住んでいる。

・めむろスキースクールのインストラクターをしている。皆さんがどのように感じているのか、

興味があって参加した。

（コーディネーター 前田 氏）

・議論をする上での約束事。難しい話はしない、芽室町に住んでいる皆さんが生活視点で話を

してもらえれば良い。

・前回皆さんからは、新嵐山に対する否定的な意見より、小さい頃から慣れ親しんでいた場所、初めてドライブに行く場所、今も利用するスキー場があり感謝しているという意見が多い。

その反面、町の人からは良い話を聞かない、施設の老朽化で使いづらいという話を聞いた。

・事務局から、新嵐山がどのような方向に進んでいくのかという説明があり、皆さんから忌憚の

ないご意見を聞きたいという話があったので、それを踏まえ、今回からの議論の考え方を共有

したい。

・「目的・目標」「成果・課題」「ネクストステップ」「方法」と「課題～真因～解決策」をイメー

　ジしたいが、発言は自由にしてもらって構いません。

・目的は町から説明にあったように大きく２点。

　　○町民の健全なレクリエーションと健康の増進

　　○観光の振興

まずは、「観光の振興」から話を進めたい。

　　○課　題（何が問題か、課題の大きさ・インパクト、ありたい姿とのギャップ）

　　○真　因（なぜそうなっているのか、課題の本質なのか）

　　○解決策（それは本当に解決できるのか）

　これらを前提に、自由に話してほしい。

・初めに、芽室の「観光の振興」ってどんなことか、イメージを共有したい。

（委員３）

・都市から人が来て、良いところを見て、また来たいという印象をもってもらうことが良い。

・何回も来たい、季節ごとに表情を見せる（グリーンツーリズム）ことが大切であり、それが

観光だと思う。

（委員４）

・観光とは、何かを目的に外から人が来ること。観光の振興に寄与するとなると、新嵐山を目的

に芽室町の外から人が来ること。

（委員５）

・コロナになってどこにも行けなくなり、地元地域を観光してもらう形も一つある。

・ある程度自由に行けるようになり、都市間の競争の中で「これがあるから、あれを見よう」と

いう流れになると海外からのお客様（インバウンド）も来ると思う。

（委員６）

・非日常を求めて出かける。新嵐山では山頂から見る十勝平野。38号線（芽室坂）を上がって

見える日高山脈。芽室公園の柏の木も非日常と思う。

（委員２）

・目的があって、その目的に人が集まること。

（委員７）

・管外からのお客さまからお金を生む仕組みづくり。成果は売上、収益になる。

（委員８）

・休日にしたい、行きたいことが楽しいことなので、わざわざ行きたくなる魅力が大切。

・美味しものを食べに行く、何かを見に行く、ここなら体験できる、といったものがあると行き

たくなる。

・非日常を求める。

・芽室町から見る日高山脈がちょうど良い距離感だと思うので、写真が撮れる場所があると素敵

である。

・バイク乗りなどは伝達力がすごいので活用してはどうか。

（委員９）

・人がたくさん集まること。来ていただくことが観光。

・道の駅ができた理由を聞いた時に、地域の人が運営に携わっていることを知り、地域の人たち

のやりがいや生活に関わってくるし、地域の人が精神的に潤い、豊かになると思う。

（委員１０）

・人に来てもらい、お金を落としてもらうこと。

・そのためには、どうやって人を集めるか。

（委員１１）

・町外の人が芽室町に来て、お金を落としてもらえるか。いかに芽室町に来る目的をつくるか。

（委員１２）

・SNSで情報共有したいと思う場所に家族で行ってみたいと思う場所がまちの顔になると思う。

（委員１）

・日高山脈を見渡せる景色を求め、芽室町に移住した。自宅を起点に周辺で楽しめる場所、高齢

になっても足を運べるような場所になってほしい。

（委員１３）

・何かのきっかけで知ってもらい、来てもらい、楽しんでもらう。そして、実際に来てもらい、

　ファンになってもらう。

・帰った後に「行ったことがある」「また、行ってみよう」とか、インターネットで「買ってみ

よう」となることが良いと思う。

（コーディネーター 前田 氏）

・観光は、町外もインバウンドも芽室町が目的にならなければいけない。

・人が集まるということは、論点がいくつかあって大きくは

○地域の魅力を伝えて、ファンをつくること。

○お金を循環させること。

・皆さんの話をまとめると、大きく２つあったと思う。

○観光客を増やして、お金を循環させること。

○お金も大事だけど、地域の魅力を伝えて、芽室町のファン・自分たちの仲間を増やすこと。

　この２つの論点から話をしたい。

・新嵐山活用計画のビジョンには「この町にしかない地域価値（景観・食・人）が体感できる」

と記載しており、これを伝えたいということを主目的としている。

　お金を稼ぐのか、観光客が増えればよいのか、どちらを主軸に置いて、観光の振興をするべき

なのか。

・感覚論になるかもしれないが、みなさんが納税者として、新嵐山にどの程度まで支出することを受け入れるのかを町へ伝えた方が良い。

・Bグループは、観光とはお金よりも観光客を増やすことが多かったと思う。観光を生業として

いる人が少ないのが理由か（商店街、事業者がいない）。

・地域の価値、魅力を共有するという点を深堀したい。感覚的でいいから「地域の価値・魅力を

共有すること」がうまくいっているか。

（委員１３）

・ファンづくりをするために町の魅力を町外へ共有することは、上手くいってないと思う。

新嵐山が変わったことは、噂では聞いているが、具体的にどう変わったのかわからない。

　例えば、レストランメニューも、どんなメニューがあるのか分からない。

もっと、知るきっかけが必要である。

（委員２）

・町民が新嵐山の事業に興味を持っているのか。外から愛される部分は町民が愛していないと外の人も愛せないと思う。それが広がって、観光になっていく。ポジティブな噂が流れれば

　観光に対して良くなっていくのではないか。

（委員１２）

・魅力の共有という点で、SNSで情報発信しているが、自分の周りではキャンプ場のトイレの

改修を知らない人が多くて、キャンプ場の詳しい話がうまく伝わっていない。

（委員８）

・芽室は野菜が美味しい。どこで買えるかというと、愛菜屋であり、それを食べられるのが、新嵐山という流れになると良い。美味しい状態で調理したものが新嵐山で食べられるようになると楽しくなる。野菜は売っているが、その先がない。

（委員９）

・地域の価値をみんなで広げる、みんなって誰だろうと考えている。

外から人が来てほしいが、魅力の共有という部分では、町民にも共有が必要である。

魅力が外に伝わっているかという点では、まだまだ足りない気がする。

・町民に向けての周知であるが、子どもに向けてのPRは上手くいっていると思う。町内の

子どもたち（幼稚園、小学生）は、間違いなく新嵐山へ行っている。

今年は、学校からバスで移動して、一日体験する授業があった。

・新年交礼会で町長の話があったが、スライドの最後に新嵐山展望台からの風景があった。

町民にとっては思い入れのある風景である。

（委員１３）

・子どもの頃、小学校から新嵐山まで歩く遠足があった。スキー学習にも行った。

（委員５）

・芽室に戻ってきて感じたことは、例えばコーン炒飯という言葉は知っているが、なぜ芽室町が

　コーン炒飯なのか、その背景や誕生の経過などがあると思う。

・観光地としては、愛菜屋もあるので物語として結び付けながら、町民の誇りになるような物語

　を外に伝えていけるようになれば、次の展開につなげていけると思う。

（委員４）

・意外と芽室町に転入している方が多い。同年代もUターンで戻ってくるケースが多い。

・芽室町に住むところまでいく人には、地域の魅力や価値の共有は届いているのかもしれない。

　一方で、住んでいる人にとっての地域価値と観光に来られる方の地域価値がイコールなのか。

　芽室町の地域価値が本当に観光につながるものなのか。

（委員１）

・地元野菜を地域で食べられるというPRが不足していると感じる。

（委員７）

・町への思い入れはあるが、PRが成功しているかどうかは疑問を感じている。

　町民は「嵐山」と言うが、ナビで嵐山を検索しても出てこない。本当は嵐山ではなく新嵐山。

町しては、新嵐山スカイパークとしての認知を広めたいという思いはあるが、みんなは嵐山

と呼んでいる。その点がリアルにPRが上手くいっていないのではと感じるところである。

（コーディネーター 前田 氏）

・ここに住んでいる人が幸せになることと、経済の発展とは必ずしも一致しない感じがする。

・みなさんの意見では、PR力が弱いという点は共通している。

・芽室の「観光」として、背景や物語が分からない。

・観光客が増えると、何かいいことがあるか？住んでいる人は幸せになるのか？

　みなさんは、新嵐山にもっともっと観光客が来てほしいと思っていますか。

（委員１３）

・自分の楽しむ場所も欲しいので、ほどほどで良い。

（委員１）

・多少の人には来てほしいが、人でごった返しになり、町が汚されたくない。リピーターが

増えることはうれしい。

（委員１２）

・増えることは良いと思う。

魅力があるから集まるので、それで住んでいる人が自慢できれば良い。

（委員１１）

・観光客には来てもらいたい。カミビのお店にいるが、新嵐山だけではなく、他の場所にもお金

がまわれば良いと思う。

（委員１０）

・収支がマイナスからプラスに転換するくらいは来てほしい。

リフトの改修ができるくらいは、収支改善してほしい。

（委員９）

・新嵐山だけに集中するのではなく、町内に分散してほしい。

（委員８）

・地域別の利用状況を踏まえると、帯広に来たらついでに寄りたいと思う場所になるくらいに

なれば良いと思う。

（委員７）

・どちらでも良いが、赤字があるので、それを改善するための観光であれば、増えた方が良い。

（委員２）

・基本的には増えてほしい。交通の利便性など他の観光地と比較して立地条件はどうなのか。

（委員６）

・自分はスキーをするが、増えすぎてリフトに並ぶことは求めていない。

　ただし、リフトを改修するには増えてもらいたい。

（委員５）

・今は増えなくても困らないが、5年後に同じことになると思う。

・余市は東南アジアの企業がホテルを建設しているが、そんなインパクトの強いものがないと

今後、この町の子どもたちは、何で税収・財源を獲得していくのか心配である。

（委員４）

・新嵐山は近郊など十勝管内の利用が多い。コロナの状況を踏まえると、外に頼るのは不安定

である。

・芽室町の良いところは、住みやすいなどが地域の価値である。観光を進めるとそれがマイナス

に働くのではないかと思う。

（委員３）

・来てもらった方が良いと思う。大きな観光地（京都やニセコ）と比較、競争はできない。

・来てもらう人のためには、わかりやすさ、やさしさが必要であるが、それにはお金がかかる。

（コーディネーター 前田 氏）

・自分の理想の芽室町は、そんなに人が来てもらわなくても良いという印象。町が汚れると困る。

・新嵐山スカイパークが赤字では困るが、ものすごく儲けてほしいという感じでもない。

・令和3年度の営業分析で確認したいが、スキー場は黒字である。前回の議論からもスキー場は

　評判も良く、町民にとって愛着もある。

　一方で宿舎、公園、キャンプ場についてであるが、公園はお金を生む場所ではない。公園管理

には、一定程度の費用がかかるので赤字になるのは仕方ないと思う。そうなると、宿舎部門が

問題となる。

・事務局に確認したところ、年間6,000～7,000人の利用があれば、それなりの収支になると

伺った。資料では平成5年度に15,000人の宿泊実績がある。

どうして、平成5年度15,000人もいたのに、令和元年度6,000人になったのか。この頃から

芽室町に住んでいる方に伺いたい。

（委員２）

・芽室町は宴会をする大きな場所が少なく、当時は町内会などで利用（宿泊セットの宴会）して

いたと思う。

（委員７）

・スキー客の減と比例しているのではないか。

（委員１０）

・会社や町内会で利用していたが、新嵐山でやる魅力が減ってきたのではないか。

（委員１３）

・出張で来た人は、大浴場と和室があり、新嵐山を指定し、宿泊していた。

帯広でラリージャパンが開催された頃から、市内にホテルが増え、温泉付きホテルもできた

ことから、出張などで来られる方の利用がそちらに引っ張られたのではないか。

　新嵐山のお風呂の改善に目を向けてほしい。

（コーディネーター 前田 氏）

・課題と解決策を考えていただきたい。15,000人に戻せるかどうか。

（委員４）

・端的には無理かなと思う。

・団体客が一斉に来て、同じものを食べて、同じ行動するのは昭和モデルである。

　Z世代とか令和世代には魅力的ではなく、同じ戦略では難しい。

（委員５）

・少子化の問題もあり、以前のペースのように人が来ることは難しく、そこに戻すのは難しい。

・世代的に求めるものが違う。

（委員３）

・損益分岐点までに戻すことが現実的である。

（委員１０）

・以前は、散策路も魅力的でホタルもいた。台風で全て流されたので宿舎周辺の魅力が少なった

ように感じる。

以上



